

男女共同参画の推進のために

問 役場総務課自治振興係 ☎ 295-2112 内線312

男女共同参画とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」とされています。（男女共同参画社会基本法第2条）

毛呂山町では、「毛呂山町男女共同参画推進会議」において、意思決定をする場合などで男性も女性も共に意見が反映されるよう、女性の積極的な登用、参加を促進するためには、どのようにすればよいのかなど、男女共同参画の推進を図るために、6人の委員が会議や研修を行っています。

今回は、さいたま市にある男女共同参画推進センター「With Youさいたま」(☎048-601-3111)と委員が日ごろ考えていることを紹介します。

With Youさいたまに見学
に行ってきました

会長 若上陽子

10月30日、男女共同参画推進会議の研修で、「With Youさいたま」に伺いました。

埼玉県男女共同参画推進センターであるこの施設は、さいたま新都心のホテルプリランテナ内にあります。間借りのイメージで手狭な施設を想像していましたが、それとは真逆のとても広い施設。研修室がいくつも並び、座敷の部屋や、研修でPCが学べる部屋もありました。ここで開かれる研修は必ず保育が付いているのです。保育者はホラ

ンティアではなく、業者委託。人手不足の心配がなくても

安心してセミナーが受けられる

そうです。施設内にはライブラリーもあり、男女共同参画関係の本や資料などが充実していました。

行ってみて感じたのは「とにかくうるやましい！」でした。都心部で仕事の種類も量も多いであろうに、そのうえこの施設。同じ県内なのにこの環境の差は何だろうと感じました。しかし

毛呂山には毛呂山の良さがあります。自然が多く、住宅事情も都市部より良く、祖父母が近くにいる割合も高く、助けを得やす

女性と仕事と町づくり

委員 大久保岳史

私自身、今まで女性の立場になって世の中を見てないことに気づき、反省しました。

日本の近代史は、およそ40年で大きな節目があるといわれています。私は、自分の仕事と地域の活動を、自分なりに一生懸命やってきたつもりでした。男性は、それで良いと思っていました。それを女性の目線にしたとき、40年前は多くの女性が、学校を卒業したら働き、そして結婚、出産を機に退職、後は専業主婦になっていたと思います。それが、いつの間にか男性と共に生涯において、働く人が増えてきました。

その反対に男性は、女性の代わりに、これまで家庭のことをどれだけしてきたのでしょうか。これまで女性は、世間の動きに対応し、変わってきました。

私たちは、それぞれが、様々な人生を歩んでいます。しかし、職場や家庭、町づくりは、そこに関係するすべての人が考え、行動し、もつと自分の意思で積極的に参加していくことが重要です。

次世代のために今できることを少しずつ協力していくことが大切だと感じました。

私たちの町に、今なぜ男女共同参画が求められているのか

委員 波田真澄

私たちの町の特徴として、核家族が多く、通勤時間が長いため、家庭生活に父親が参加する時間が少ない家庭が多いことがあげられます。そのため育児、高齢者のケアする時間を、ほとんど女性に頼っている事情があります。その反面、女性の生活の実情が、あまり理解されていない様に感じます。

しかし、ここ近年に起こる自然災害などの中で、男女共同参画の必要性が求められてきています。例えば、被災地においては、男性のみの会議により様々なことが決定されたことで、高齢者や障がい者といった災害弱者などへの配慮が欠け、つらい思いをした人が多かったと聞きます。

このことは被災地だけの問題ではありません。予期せぬ災害が起きたとき、私たちの町においても、行政や各地区などの会議への女性の参画が必要になってくると思います。女性の意見が様々な会議の場において、その決定事項に反映されるような、毛呂山町に相応しい男女共同参画が、今求められているのではないのでしょうか。